

# 四日市市文化財保存活用地域計画 かわら版

第2号  
2021年3月

四日市市では、市内にある文化財の保存・活用を進めるために、「四日市市文化財保存活用地域計画」を作成しています。かわら版では、計画の作成にむけた検討の経過を定期的にお知らせしていきます。

開催  
報告

シンポジウム 郷土の文化遺産

## 文化財のちから ～みんなでまもり、みんなでつなぐ～

令和3年1月30日（土）、四日市市文化会館で開催し、約80人の方にご参加いただきました。当日は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、来場者数を限定し、講演等のリモート配信や、YouTubeでの同時配信を行い、オンラインでもご視聴いただきました。シンポジウムの内容や参加者からのご意見は、現在作成を進めている「四日市市文化財保存活用地域計画」に活かしていきます。

前半は、青柳正規氏より「文化の地域興し」として基調講演がありました。文化財の保存と活用を進めていくべき背景や考え方、地域へ与える効果などを、国内外の様々な事例を通して具体的に紹介いただき、四日市のこれからの取組みに対して示唆に富む講演でした。

後半は、パネルディスカッションとして、石田芳弘氏のコーディネートのもと、登壇者それぞれが実際に関わっている四日市市内や他地域での取組みなどを紹介いただきながら、今後の可能性について意見交換を行いました。岩崎恭典氏からは四日市大学の学生による鯨船行事への参加などの取組み、朝倉由希氏からは福井市一乗谷で自ら実践している具体的な取組みが紹介されました。

「これまで文化は経済とは距離を置かれていたが、平成29年（2017）の改正文化芸術基本法以降、活用して、経済も考えながら保存していくことが求められている。四日市市はそのフロンティアとして、地方から小さくても具体的な取組みを発信していくことが期待される」という四日市市へのメッセージで、シンポジウムは盛会のうちに終了しました



前文化庁長官  
青柳 正規 さん



至学館大学コミュニケーション研究所長  
石田 芳弘 さん



四日市大学学長  
岩崎 恭典 さん



文化庁地域文化創成本部  
総括・政策研究グループ研究官  
朝倉 由希 さん



四日市市教育委員会  
葛山 拓也



## 地区へのアンケート・ヒアリングを実施しました

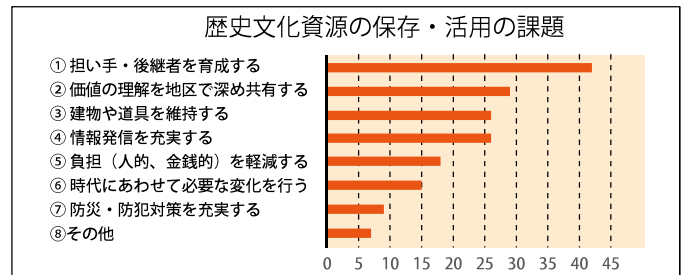
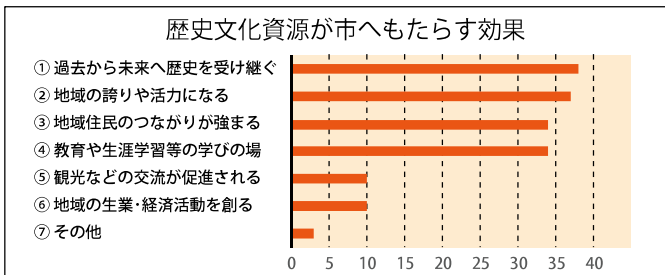
文化財保存活用地域計画の作成にあたり、指定文化財だけでなく、地域で大切にされている歴史文化のお宝を含めて、地区ごとに「文化財リスト」の作成を進めています。作成したリストは、各地区と共有し、今後、文化財を継承していくために活用していきます。

地域に眠っているお宝の調査を目的に、教育委員会社会教育・文化財課の職員が、令和2年10～11月に市内28地区それぞれにお伺いし、地区の代表の方々へのヒアリングを実施しました。それぞれの地区では、これまでに地域の文化財等のマップや冊子が作成されています。それらの情報を各地区の文化財リストに掲載し、ヒアリングで得られた多くのお宝を追加しました。また、現在の取組み状況や地域ならではのエピソードなども教えていただきました。



ヒアリングの様子

あわせて、文化財保存活用に関する意識調査も実施しました。下のグラフの通り、文化財は、過去から未来へ歴史を受け継ぐもので、地域の誇り、活力、つながり、学びなどの効果があると考えられ、また、多くの方が担い手や後継者を育成することが課題と感じられていることがわかりました。



## 第2回文化財保存活用地域計画策定協議会を開催しました



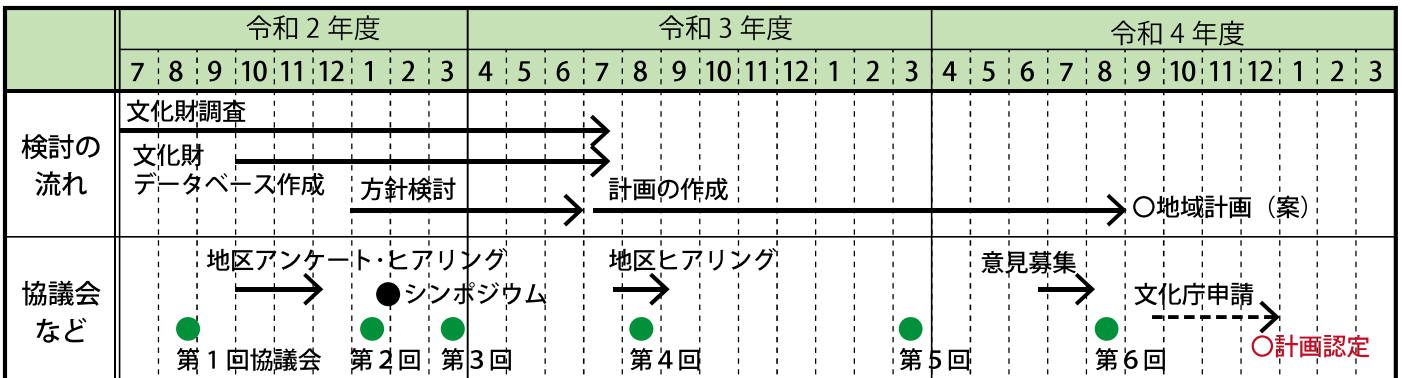
(委員6人はオンライン参加)

令和3年1月15日、学識者や地域の代表から構成される協議会を開催しました。ヒアリング・アンケートの結果や文化財リストをもとに整理された各地区それぞれの歴史文化の特徴、さらに四日市市の歴史文化の特徴について意見交換が行われました。鬼頭委員長には、「今回、発掘した未指定の資源を、四日市の魅力としてまとめて発信できるよう、上手に分類し、活用を考えていけると良い」と協議会の意見をまとめていただきました。

今後、保存活用の枠組みとなる「ストーリー」を作成し、優先的に取り組んでいく区域や具体的な事業について協議していきます。

## 計画作成のスケジュール

令和2～4年度で計画を作成し、令和4年度下半期に文化庁へ申請、認定を目指します。



※新型コロナウイルスによる影響のため、当初の予定を変更しています